

IV. 平成28年度「産学連携サービス経営人材育成事業」

「地域資源とニーズを活かした健康づくりのシステム構築と人材育成」

松本大学 等々力 賢治・根本 賢一・田邊 愛子・赤羽 雄次・宮坂 佳典

1. 事業概要等

超高齢化に伴う国民総医療費の巨額化と負担増大を背景に予防医療が有力な抑止策として注目されている。そうした動向を踏まえ、地域の資源とニーズを活かして産学官によるコンソーシアムを形成し、健康づくりに要するシステムを構築するとともに、運動指導者の力量向上と運動の商品化や市場形成に関連するプログラムを創出し、運動指導とビジネスの融合を図ることによって「ビジネス感覚」を持った健康づくり人材の育成に取り組む。

2. 補助事業を実施する地域

松本市及び松本地域を中心とする長野県

3. 設置するコンソーシアム

(1) 事業の実施体制図

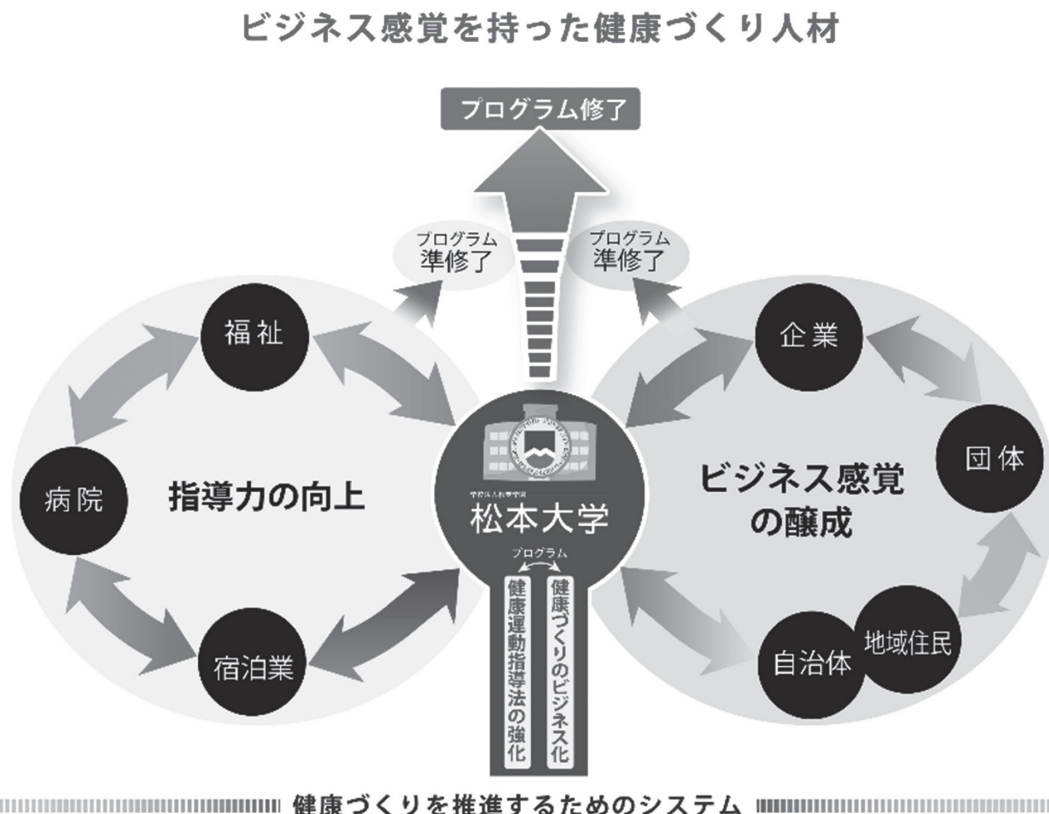
本事業の実施主体は松本大学人間健康学部ス

ポーツ健康学科であり、会計管理は松本大学事務局管理課が担当する。事業を推進するためのコンソーシアムは、図にもあるように、健康づくり＝ヘルスケア（この二つの用語はほぼ同義であり、以下、主として運動指導などに関わる場合は前者を、また、主としてビジネスに関わる場合には後者を、それぞれ使用する。）における「指導力の向上」に関するものと、サービス精神に富み市場志向的な「ビジネス感覚の醸成」に関するものの二つを形成、設置して、松本大学が媒介して適宜双方を関連させることによって最も効力を上げるべく運営し、健康づくりのシステムとして機能させる。

*「指導力の向上」に関するコンソーシアム

例えば、池の平ホテルやエア・ウォーターなどと個別に結び運用してきた連携協定（各「協定書」参照）を踏まえ、その連携関係をいっそう深める形で形成する。

ビジネス感覚を持った健康づくりの人材育成と そのためのシステムのイメージ図



そこでは、池の平ホテルで行われている「健康いきいき診断プログラム」「ウォーキング講座」及び、エア・ウォーターが運営する福祉施設の梓水苑で、松本市立病院の人間ドックを受診して運動トレーニングが必要と判断されたクライアント^{注1}を対象に行っているプログラムを見学して、クライアントからのアンケート内容や診断結果を分析し、指導スタッフとプログラムについての意見交換などを行う。その際、それぞれに所属する健康運動指導士に例示や説明、指導などに積極的に関与していただき、現場でしか得ることのできない個人別で即応的な指導法や内容について適切に教授していただく。

*「ビジネス感覚の醸成」に関するコンソーシアム

「健康寿命延伸都市」を標榜する松本市が設置している「松本地域健康産業協議会・健康経営研究会」に参画する企業や団体などを中心に、来年度（平成28年度）には形成し設置する予定である。そこでは、企業経営のトレンドとして注目されている健康経営^{注2}について研究、情報交換などを行い、地域の中小企業で働く従業員の健康増進に資する方策を探り実践していくとともに、その産業化に要するデータを収集、蓄積することに取り組む。

したがって、本学の学生が、そうしたデータや情報、商品化の手法や関連市場の動向など、ヘルスケアビジネスの基礎的知識を学ぶ上で極めて具体的かつ実践的な場となる。具体的には、①松本市の「健康産業・企業立地課」関係者に健康関連企業の必要性と可能性、地域企業の健康への取組状況やその経済効果などについて、②市場調査を行っている団体関係者に企業従業員の健康意識や健康ニーズに関するデータの採り方と分析方法などについてそれぞれ講演していただくことや、先駆的な実践例について学んだり現場見学などを通じて理解を深める。

また、「ビジネス感覚の醸成」に関するコンソーシアムでの学びを活かして構想された運動や指導法を、「指導力の向上」に関するコンソーシアムで実際に試してみることも考えられ、その意味で、両コンソーシアムは有機的に機能するのは間違いない。

*それぞれの役割

以上のような、本学の企図する人材育成という視点に加え、参加企業・自治体相互の役割として次のことが指摘できる。左のコンソーシアムでは、福祉施設や宿泊業者は、人間ドックを行う病院にとって具体的な運動処方先の確保という役割を果たし、

病院は、福祉施設や宿泊業者の提供する運動処方に対する信頼性を保障するという役割を果たす。また、右のコンソーシアムでは、自治体は、企業に対して健康増進に向けた事業モデルを基盤に、介護保険サービスから介護予防サービスまでの取組に関する事業展開に対し助言を与えるといった役割を果たす。松本大学は、一義的には両コンソーシアムを結節させて健康づくりを推進するためのシステムとして構築し機能させる役割を担い、さらに、自治体並びに企業に対して、①介護保険分野及び介護予防分野における運動プログラムの監修と協力、②エビデンスのある支援及び評価方法・プログラムの監修、③調査事業研究の結果における支援及び評価方法の分析と解析といった役割を果たす。

*産業界からの評価視点

本事業に対する産業界からの評価視点は、「指導力の向上」に関するコンソーシアムでは、それぞれの信頼性の向上と、その結果としての集客力の強化につながったかどうかであり、また、「ビジネス感覚の醸成」に関するコンソーシアムでは、自前では困難な中小企業の従業員の健康づくりに関する具体的なアイデアとプログラムの創出と提供につながったかどうかである。

松本大学については、システムを構築できたかが第一の評価視点である。そして、本プログラムの目的とする人材を育成し地域の企業にどの程度就職させることができたかが次の評価視点であり、加えて、本プログラムが先進的・典型的事例として認められ全国的にどの程度広がったかといった点もまた評価視点になる。

(2) コンソーシアムに参画する機関名

本事業のコンソーシアムに参画する企業・自治体・大学それぞれの果たす役割の概要は、以下のとおりである。なお、個別については、その下に記した。

- 大学→指導力向上のための医療・福祉・宿泊施設と、ビジネス感覚を醸成する自治体・地域住民・団体・中小企業の媒介役となり、人材の育成を担う。また、各分野における運動プログラムの監修と協力、調査事業研究の結果における支援及び評価方法の分析・解析、エビデンスのあるプログラムの監修などを行う。
- 行政→地域住民を対象とする健康寿命延伸に向けた事業モデルを基盤に、介護保険サービスから介護予防サービスまでの取組に関する事業

実績を踏まえた助言と協力を行う。

○企業→実習先及び情報の提供と本プログラムに対する評価などを行う。

※参画機関名は記載省略

4. 開発するプログラムの内容

(1) プログラムの名称・目的

本プログラムの名称は、「ビジネス感覚を持った健康づくり人材の育成プログラム」である。

本学科では、事業の遂行に合わせて、平成29年度より「予防医学・健康づくりコース」「ヘルスケア・スポーツビジネスコース」「学校体育・健康教育コース」の三つからなるコース制を導入し、前二者によってプログラムを構成する。内容及び目的は次のとおりである。

まず、健康運動指導士などの指導者養成を主として担う「予防医学・健康づくりコース」を設置して、既存科目を抜本的に改変してインターンシップ科目とし、図の左サイクルにある宿泊施設や福祉施設での実習を通じて指導力のいっそうの向上を図る。また、「ヘルスケア・スポーツビジネスコース」を設置し、運動指導を中心に「健康づくり」サービス分野のビジネス化に関する科目を新たに設け、図の右サイクルにある自治体・団体・企業などの関係者や担当者による講演や指導を行っていただく。また、麻雀など各種娯楽やツーリズムなどと結びつけ楽しさやインセンティブを付加したサービス財としての運動を考案（＝商品化）した例などを取り上げて、その発想や工夫などについて学びを深め、ヘルスケアに関連する産業や市場に関する知識や見識を培う。そうした一連のカリキュラムを履修し、インターンシップを経験することによって、より充実した運動指導は当然のことながら、それをビジネスとして捉え実施者（＝消費者）のニーズに即し、その目線に立って取り組むことのできる人材の育成を目的とする。

本プログラムの目的は、直接的には上記のとおりであるが、加えて、本プログラムが先進的・典型的事例として認められ全国的に同様の取組を拡げること、そして、それによって期待する人材が多数育成・輩出されるようになることの二点を、中期的な目的としている。高齢化が進み健康問題に対する関心が高まりを見せる中で、経験主義的で効果の疑わしい指導と、実施者のニーズを無視した一方的で押しつけ的な指導の双方に対して、科学的エビデンスに基づいた、しかも実施者のニーズを大切に

した指導が正当に評価され価値づけられていくことになるからである。さらに言えば、それは、ヘルスケア市場と関連産業の健全な成長を促し、携わる人々の生活を豊かにするとともに、予防医療の成長・発展と、その反対給付として国民総医療費の削減、減少を結果することも間違いない。多少迂遠になったが、そうしたこともまた、本プログラム・事業の目的、目標である。

既述のように、当プログラムは設置予定の二つのコースにまたがるものであり、先の各科目を履修し左右のサイクルにしたがって学び、「ヘルスケア・スポーツビジネスコース」の主要科目である「ヘルスケアビジネス論」を履修・修得した上で「健康運動指導士」資格を取得した学生には、プログラムを履修・修得したことを認める「プログラム修了証書」を授与する。なお、関連する資格には、上記のほか、「健康運動実践指導者」や「第一種衛生管理者」などもあるため、それぞれと左右のサイクルのどちらを学んだかといったことを考慮し、「準修了証書」的なものを授与する。

具体的には、「ヘルスケア・スポーツビジネスコース」の主要科目である「ヘルスケアビジネス論」を履修・修得した上で「健康運動実践指導者」資格を取得した者と、「予防医学・健康づくりコース」の主要科目である「健康運動指導現場実習Ⅰ（補助実習）」を履修・修得した上で「第一種衛生管理者」資格を取得した者を、それぞれ対象に発行する方向で、その名称とともに検討していく。

いずれにしても、修了証書が、学生の学習意欲を引き出すとともに、当プログラムの企図する「ビジネス感覚を持った健康づくり人材」として、両コンソーシアムに参加する企業・自治体・団体などの認知と支援を受けるなどして、社会的評価にも耐えるものにすべく取り組む。

なお、当プログラムは、当面、スポーツ健康学科の学生を対象とするものであるが、健康づくりのもう一つの柱である栄養に関する教育課程を擁し管理栄養士資格の取得を目指す学生が在籍する健康栄養学科にも拡げていく予定である。それに合わせて、担当窓口も、人間健康学部には付置する形で運営されている「地域健康支援ステーション」を拡充するなどして、事業の円滑な運営を図るべく考えている。さらに、5年後程度を目処に本学が自ら福祉施設を設置して経営し、必要な人材を供給し、それぞれの資格取得に必要な実習などを行う場としても機能させるとともに、企業や自治体などから

要望があれば在籍メンバーを派遣し健康づくりを支援していくといったことも検討、立案していく。また、このプログラムにおける学修を基盤にして、健康づくり分野における商品開発や起業を目指す学生や卒業生が出てくることを期待したいし、そうした状況が生まれるなら、先に紹介した「ビジネス感覚の醸成」に関するコンソーシアムをそのための「試しの場」、インキュベーター^{注3}として位置づけ、機能させていく。

本事業・プログラムは、現在、「健康寿命延伸都市」を標榜し諸施策を展開しつつある松本市及び関連団体などと松本大学の進めている諸事業を関連させコンソーシアムを形成し組織化することで、連携と運用をより効力のあるものにするという側面も併せ持つ。それによって、健康づくりに取り組むことが資金的・人的に困難な地域の中小企業にも必要な人材と機会を提供することになり、さらに、これを先進的・典型的事例として全国的にも拡大、普及させていくことが可能であると予測し大いに期待している。

(2) (1) で開発するプログラムにおける主な受講対象者

松本大学スポーツ健康学科生

(3) (1) で開発するプログラムにおいて主に対象とする分野・職種等

医療・介護・宿泊・観光・娯楽・地域の中小企業

(4) (1) に記載したプログラムで将来的に募集する目標年間受講者数(定員等)

40名

(5) 修得すべき能力

- ・専門的な知識及び指導実践力をもって健康の維持・増進に貢献できる能力
- ・健康づくりの商品化や市場拡大に関する問題発見・課題解決能力
- ・地域社会の一員として不可欠な社会的マナー及び世代を問わないコミュニケーション能力

(6) 教育内容(授業科目等)及び各科目の教育方法、開発する科目数等

※記載省略

5. 実施計画

※記載省略

6. 事業実績

※記載省略

7. 専門用語の解説

注1: クライアント

依頼人、お客様のこと。広い意味では医療における患者も含む。

注2: 健康経営

企業が、従業員等の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践すること。企業理念に基づいて、従業員への健康投資を行うことで活力の向上や生産性の向上など組織の活性化をもたらし、結果的に業績向上やブランド力の向上にもつながるとされる。

注3: インキュベーター

新規産業の企業を育成し、誘致するために、公機関などが、低コストで提供する施設などの意味。

8. 連絡先

※記載省略

9. 事業経費(平成28年度分)

※記載省略